

第32回大会

中国・四国・九州地区

生涯教育実践研究交流会



- 期 日 平成25年5月18日(土)～19日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会
第32回大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター

「少子高齢社会の未来」

第32回大会も各県の実行委員さんのご尽力によりすばらしい実践を集めていただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。

近年は、本大会参加者の帰郷後の活動が花ひらき、継続、新規、再開も含め長崎、佐賀、大分、山口、広島、岡山、島根、鳥取、愛媛県で交流会が開催され、福岡県実行委員会として共催、後援、協賛等の関わりを持たせていただき参加できましたことを大変嬉しく思っています。お世話になりました。

我が国では高齢者人口の増加と共に医療費も伸びています。中でも後期高齢者の医療費の伸びは著しく、平成22年度の後期高齢者の医療費は12兆7千億円で、一人当たり90万円です。一日当たりに直すと何と348億円の医療費になります。平成20年度が11兆4千億円、21年度が12兆円ですから伸びの速さと額の高さが分かります。

今年から団塊の世代が高齢者の仲間入りをしました。あっという間に後期高齢者になります。高齢者扶養は国の重要課題ですが高齢者が健康で如何に生きるかも国民一人ひとりの大きな課題です。本大会で語り継がれている「活動するから元気になる」が今日の超高齢社会を救うキーワードになることは間違いないことです。

一方、少子化の中「過保護・放任」で育ってきた子ども達の体力・耐性の低下、規範意識の低下や基本的生活習慣の未熟さなどは大きな社会問題になっています。その原因と責任を追ればその親を育てた私達高齢者の子育てまで遡りそうです。

今回の大会では、特別企画としては大会始まって以来初めて「就学前」の子ども達に視点をあて、幼稚園・保育園での実践を取り上げました。「三つ子の魂百まで」「魄より始めよ」の実践は小学校・中学校へと繋がっているのでしょうか。もう一つは、高齢社会に影響を与える活動を続けられている高齢研究者お二人に「何があなたを動かしているのか」を中心にインタビューをしていきます。

32回大会は「少子高齢社会の未来」について語り合っていただければ幸いです。

代表世話人 森本 精造

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第32回大会 実行委員

山本 稔(鳥取県)鳥取県教育委員会事務局家庭・地域教育課
神門 三郎(島根県)島根県松江市立八雲小学校
渋谷 秀文(島根県)島根県教育委員会益田教育事務所
吉岡 康行(広島県)広島県教育委員会生涯学習課
正留 律雄(広島県)広島県大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター
福原 洋子(岡山県)岡山県教育庁
中吉浩一郎(岡山県)岡山市教育委員会
赤田 博夫(山口県)山口県宇部市立鵜ノ島小学校
高木 義夫(高知県)NPO高知県生涯学習支援センター
和田 瑞穂(愛媛県)愛媛県松山市立河野小学校
馬場祐次朗(徳島県)国立大学法人 徳島大学
関 弘紹(佐賀県)佐賀県文化・スポーツ部まなび課
林口 彰(佐賀県)(財)孔子の里
紫園 来未(佐賀県)オフィス しおん
鴻上 哲也(佐賀県)佐賀県教育庁学校教育課
馬場 利浩(長崎県)長崎県教育庁生涯学習課
武次 寛(長崎県)長崎市香焼公民館
池田 幸春(熊本県)熊本県教育庁教育総務局社会教育課

三角 幸三(熊本県)熊本県宇城市教育委員会
中川 忠宣(大分県)国立大学法人 大分大学
植村 健治(大分県)大分県教育庁社会教育課
池本 要(宮崎県)NPO法人 家庭・青少年教育ネットワーク
竹内 一久(宮崎県)宮崎県高千穂町立高千穂小学校
山下亜紀子(宮崎県)国立大学法人 宮崎大学
鹿倉 貢(鹿児島県)鹿児島県立青少年研修センター
今和泉俊幸(鹿児島県)かごしま県民大学中央センター
鵜木 孝夫(鹿児島県)鹿児島県霧島市立向花小学校
(依頼中) (沖縄県)
木原 茂(福岡県)福岡県教育庁教育企画部社会教育課
今田 義雄(福岡県)福岡県立社会教育総合センター
大島 まな(福岡県)九州女子大学
古市 勝也(福岡県)九州共立大学
正平 辰男(福岡県)純真短期大学
三浦清一郎(福岡県)生涯学習・社会システム研究者
森本 精造(福岡県)NPO法人幼老共生まちづくり支援協会

T i m e S c h e d u l e

1st day 5.18Sat.

9:30	10:15	10:45	12:30	13:00
受付 玄関ロビー	開会式 2F 講堂	実践発表.1 第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		受付 昼食 玄関ロビー

13:30	16:15	16:30	17:00	17:30	20:00
実践発表.2 第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室	特別報告 「健康寿命を延ばす」 —暮らしの老年学の原理と方法— 報告者 三浦 清一郎 (2F 講堂)			第32回大会交流会 全 体 2F 体育館	県 別 2F 食堂
移動	フリータイム				

**交 流 会
特 産 品 披 露**

■日時：1日目の夜 17:30～ ■場所：2F 体育館

「実践研究交流会は、実践事例の発表がメインなのか、懇親会がメインなのか？」と問われるくらい、毎年、毎年大盛況の懇親会です。ちょっと緊張気味だった参加者の皆さん、料理をほおばり、地酒を酌み交わして、「お国自慢」をし、「村おこし」の苦労を話し合い、「人づくり」の楽しみを語り合います。その熱気に、人々の顔は真っ赤、会場は熱気ムンムン！今年も、全館貸し切りです。どうぞ心おきなく、お楽しみ下さい。

なお、せり市の売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、ご了承下さい。

T i m e S c h e d u l e **2nd day 5.19Sun.**

8:30	9:00	11:30	12:00
受付 玄関ロビー	特別企画 インタビュー・タイアログ 1部 ~幼児期の教育プログラムについて~ テーマ「『鍛える』幼稚園・保育園に問う。 —今なぜ幼児鍛錬なのか?—」 2部 ~高齢者の社会参画を考える~ テーマ「高齢研究者に問う。 2020年の『高齢者爆発』を どう回避すべきか?」	総括 閉会式	昼食
	2F 講堂	2F 講堂	

**わたしの
まちの
ポスター展**

■日時：5月18日・19日 ■場所：1F 交流ロビー

大会開催中、参加者の皆さんが携わられている「まちづくり」や「人づくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞご覧下さい。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／福田 充雄 島根県奥出雲町阿井公民館 館長
北村恵理子 佐賀県立生涯学習センター 企画主任

分科会の進め方

10:45～10:50

1 幼稚園・家庭・地域をつなぐオヤジの会の挑戦 —やりたいことを形にするプロジェクト・チームの力—

10:50～11:20

田中 一臣(鳥取県湯梨浜町) 湯梨浜町立松崎幼稚園082(オヤジ)の会 元PTA会長

竹などを使って作る半球形の「スタードーム」でお泊り保育を実施したことをきっかけに、平成22年保護者の有志が「面白いことをして一杯飲まいや」を合言葉にオヤジの会を立ち上げた。10割の参加率。出席の強要、規約等ではなく、やってみたいと思った時からプロジェクトがスタート、やろうと言った人がリーダー、周りはフォロワーにまわる。アイデアは常に前向きに取り上げる。商工会、地元消防団と組んだ園外活動「松崎探検隊」、朝市フリーマーケットへの参加、除雪作業、お寺の山でのロッククライミングなど地域との関わりが増え、父親と母親がともに子育てをする環境が生まれている。

2 困難な状況にある青少年を対象とした体験学習プログラムの開発 —児童相談所・児童養護施設・里親関係者との連携—

11:25～11:55

宮本 慎也(山口県) 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職
弘中 昭子(山口県) 山口中央児童相談所 児童福祉司
大西 清文(福岡県) 九州ぼうけん王

当「青少年自然の家」では、「徳地アドベンチャー・プログラム」(以下TAP)と呼ぶ体験学習プログラムを開発して来た。本報告は、TAPを社会的養護・支援を必要とする子どもたちに適用した場合の効果、変容、留意事項など「困難な状況にある青少年を対象とした支援プログラム」試行・検証協力者委員会が行った調査結果を主たる内容としている。本事業では、対象となる子どもの実態を勘案し、TAPのほかオーダーメイドのプログラムを付加し、事前事後のサポートプログラムも出前している。実施後は、子どもの「主体性」、「協調性」、「信頼関係」などの変容を分析すると同時に、関係施設職員の考え方や態度の変容についても合わせて分析している。

3 鞍手龍徳高等学校の「子育てサロン」の複合機能 —学校と社会教育と地域を結べばこんなことができる—

12:00～12:30

宮若市教育委員会／福岡県立鞍手龍徳高等学校(福岡県宮若市)
荒牧 直子(福岡県宮若市) 宮若市教育委員会 社会教育課 地域活動指導員

宮若市には3つの中学・高校に子育てサロンがある。中学校のサロンは「思春期の乳幼児親子との交流」を重視した校長の視点が実現の力となった。高校サロンは、サロン事業を高校にまで広めたい社会教育課・サロンスタッフと、福祉課程の授業で乳幼児親子との交流をしたい高校教諭の思いが重なり実現。開催は、平成23年度に6回、平成24年度に9回、開催時間は9：30～14：00で、出入り自由、情報の交換、悩み事相談、読み聞かせ、生徒との交流、母親同士の交流などを企画している。サロン活動の予算是社会教育課が負担し、スペースや駐車場は高校側が提供している。思春期に乳幼児やその保護者と交流する体験は、高校生に様々な教育効果をもたらしたとともに、高校生と接した保護者にも新鮮な体験を提供している。サロンは、子育て支援であり、開かれた学校づくりであり、学社の連携であり、地域との連携でもある。



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／鶴田 史子 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事
重富 泰敏 福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 手作り紙芝居から繋ぎ始めた地域活動の輪と和

10:50~11:20

木村 泰代(佐賀県佐賀市) 佐賀市諸富地区民生委員・児童委員協議会 会長

きっかけは昭和59年の夏休みラジオ体操まで遡る。余り楽しそうに見えなかった子どもたちのために始めた紙芝居や読み聞かせの輪が小児科病棟の医療ボランティアにつながり、学校支援につながり、高齢者サロンにつながった。自治会や公民館の協力を得て、夏休みの勉強会や遊び場の提供もできるようになった。そうした過程で子どもと高齢者を繋ぎ、地域の人々の関心も喚起して、老人クラブやPTAの力も借りられるようになった。ささやかな紙芝居ボランティアが多くの人々の顔の見えるコミュニティ活動に広がったのである。

2 子ども・大人の居場所を次世代に繋ぐ地域力

11:25~11:55

木下 光子(鳥取県米子市) 崎津地区子どもふれあい活動実行委員会 副会長
實近 孝子(鳥取県米子市) 崎津地区子どもふれあい活動実行委員会 委員

平成16年、文科省の「子ども地域活動支援事業」として開始、委託は3年で終了したが、スタッフもプログラムも増強して今日に至っている。受益者負担は「ワンコイン」とし、実行委員会は各種団体と連携し、子ども会、青少年育成会等と予算を出し合っている。対象は崎津小学校の児童218名、毎回のプログラム参加率は2~3割を保っている。公民館を活動拠点とし、四季を通じ、経費をかけず、多くの子どもが参加できるよう地域を舞台にして展開するプログラムを工夫している。異年齢の活動、安全を重視し、スタッフによる見守りや医師または看護師を配置するなど危機管理を徹底している。

3 「地域の子どもは地域で育てる」—新しい学校運営の創造—

12:00~12:30

三島 智彰(長崎県佐世保市) 佐世保市立祇園小学校支援会議 副委員長(校長)

12年前市の2小学校が統合されて祇園小が誕生した。「支援会議」は平成19年度に発足し、考え方や行事の異なる二つの地域の融和も重要な目的の一つである。支援会議は月1回の定例会を通して、地域と学校が「目指すべき子ども像」を共有し、委員が主体的に役割を分担し、カリキュラムを含む学校運営に地域の参加を促し、「放課後子ども教室」についても地域の有志に指導をお願いする仕組みを確立している。結果的に、活動の範囲が広域化し、中学校との連携も進み、様々な協働の展望が広がっている。



第3会場● 4F 視聴覚室

■司 会／入江田吉文 鹿児島県大崎町教育委員会社会教育課 課長
重永 桂子 佐賀県立生涯学習センター 企画副主任

分科会の進め方

10:45～10:50

1 地域ぐるみの「防災教育キャンプ」－企画・運営の論理と方法－

10:50～11:20

野島 弘宣(熊本県上天草市) ひとづくりくまもとネット・三勢共同体

文科省の委託事業を活用して、防災教育と地域の絆を深めることを目的とした2泊3日のキャンププログラムである。会場を青年の家とし、企画・運営は地域の防災、医療、教育、福祉、自治会、婦人会、PTAなどの代表で構成する実行委員会形式を取った。中身は避難所生活体験を核とする災害時の疑似体験、参加者間の交流と連帯の促進である。方法は異年齢集団の班編成による役割分担や規律ある行動のためのコミュニケーションスキルに重点を置いた。保護者や地域住民の全期間参加の困難性、幼児や高齢者の体調管理の重要性などが課題である。

2 四季折々の渓谷に神楽舞う里－住んでよし、訪ねてよしの谷づくり－

11:25～11:55

澤田 定成(島根県飯南町) 谷自治振興会 会長

遡ること昭和40年代から、長きに渡り、過疎対策の自助、共助による活動を積みかさね、平成16年には従来組織を発展的に解消し、谷地区95世帯で構成する相互支援を目的とする谷自治振興会を発足させた。活動の眼目は、町営バス廃止に伴う輸送支援活動、廃校小学校を活用した神楽文化の継承と学習活動、卒業生を組織化した隔年同窓会、自治除雪組織（スノーレンジャー）の結成など。活動の企画・運営は住民による分業と協業、予算是住民の負担金と各種助成金をもって充てている。

3 地域活性化を食に見いだした団塊世代の村づくり

－大山「手づくり豆腐サミット」による住民交流－

12:00～12:30

谷尾 良(鳥取県大山町) 国信村づくり委員会 とんトン俱楽部

国信地区には昭和29年以来の豆腐づくりの伝統があり、その設備も整っていた。「とんトン俱楽部」とは「村つくり委員会」の中の小委員会であり、旧「豆腐製造部」の新しいニックネームである。米の減反政策の影響で大豆の転作が増え、平成17年から団塊世代の居場所づくりのため、「豆腐小屋」の開放と地域活性化を目的とした豆腐づくりを復活させた。地域住民がこぞって参加できるよう祭りの要素を加えて始めた豆腐サミットは平成19年に開始、他地区の住民も巻き込んで現在6回目を終わったところである。通常の活動は、近隣の自治会や公民館等の要望に応じ、豆腐メニューを工夫しながら、週1～2回の頻度で行っている。メディア報道を通して活動が知られるようになり、近年では他団体からの出張サミットの要請にも応じている。



第4会場●4F 大研修室

■司 会／眞鍋 幸一 愛媛県教育委員会事務局教育総務課 課長
吉山 礼子 山口県宇部市教育委員会学校教育課 指導主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 全地域網羅の「夏休みフリー塾」—つなげよう地域と子ども—

10:50~11:20

NPO法人岡山市子どもセンター・子ども劇場、岡山市立公民館（岡山県岡山市）
美咲美佐子（岡山県岡山市） NPO法人岡山市子どもセンター 代表理事

スタートは2001年。「NPO法人岡山市子どもセンター」を設立し、岡山市全域で夏期休暇中の子どもの居場所づくり事業を開始した。市の全域をカバーした活動場所は、公民館、学校、コミュニティハウス、児童センターなど多様である。本事業の中心理念は、子どもが楽しみながら実体験活動の機会を提供することであり、副次的には中・高生、地域住民のボランティア参加を通して交流・信頼・支援のネットワークを広げることである。カギは「子ども観の共有」と「地域再生のネットワークづくり」である。プログラムは、工作、科学遊び、料理、昔遊びなど交流を促進し、五感を総動員する発達支援になるよう工夫している。活動の展開は毎年約50会場、参加者5,000人、スタッフ2,000人で実施している。

2 「市村自然塾九州」—宿泊共同体験で培う豊かな心—

11:25~11:55

合谷正一郎（佐賀県鳥栖市） 特定非営利活動法人「市村自然塾 九州」 塾頭
黒田隆太郎（佐賀県鳥栖市） 特定非営利活動法人「市村自然塾 九州」 事務

「市村自然塾」は、リコー、コカ・コーラウエスト、リコー三愛グループの地域社会貢献活動の一環として、2002年に特定非営利活動法人の認証を受け、2003年3月から活動を開始。「生きる力を大地から学ぶ」を基本理念に、農作業を中心とした自然体験活動、寝食を共にした共同生活を通じて、子どもたちの健全な育成、成長を支援することを目的にしている。

特徴は、通年定期的共同合宿型活動で3月から12月までの週末（金・土・日）を18回、延べ54日間、男女それぞれ30名が隔週で通塾する。また、9ヶ月間同じ子どもが活動することにより、仲間との付き合い方、譲り合い方、協力の仕方などを学ぶ。運営費用は、寄付金や会費で運営し、主要支援先はコカ・コーラウエスト㈱。なお、塾生は交通費以外は無料となっている。

3 日置市「おひさま」運動—「風格ある教育」を目指す実践4項目—

12:00~12:30

山田 哲夫（鹿児島県日置市） 日置市教育委員会社会教育課 参事兼社会教育主事

「お・ひ・さ・ま」は市民が設定した教育実践4項目のスローガンの頭文字をとったものである。この4項目は教職員、PTA役員、一般保護者と子ども、市役所職員、社会教育関係団体など約1,200人から標語化のためのアンケートを行って作成したものである。キーワードはそれぞれに「お」が「思いやり（あいさつ）」、「ひ」が「広げよう読書」、「さ」は「さわやかな汗（スポーツ・健康）」、「ま」は「守ろうきまり」である。また、それぞれに関連した事業は、「お」が「学校応援団ボランティア」、「ひ」が「日置市民総ぐるみ読書活動推進計画」、「さ」が「梅マラソンジョギング大会」・「妙円寺詣り」、「ま」が「おひさま運動会員証」の発行などである。運動成果の確認のため「家庭の日（第3日曜）」等での自己評価を奨励している。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／内村 文雄 島根県益田市教育委員会市民学習課 派遣社会教育主事
棕本 博志 長崎県社会教育支援「草社の会」事務局

分科会の進め方

13:30~13:35

1 夢街道「岩国往来」の復元を起点とした地域活性化プロジェクト —協働が蘇らせた歴史に埋もれた「岩国往来」—

13:35~14:05

藤森 勝彦(山口県岩国市) 岩国往来まちづくり協議会 会長

岩国往来は1600年代に開かれた岩国藩、萩藩に跨る歴史の道であるが、大正時代に利用されることなく忘れ去られた道です。2005年、「往来」沿いの一里塚調査をきっかけに「岩国往来まちづくり協議会」を設立した。沿道の各自治会の協力を得て、道を整備し、駕籠立場、一里塚などを復元。2008年、「夢街道ルネサンス」に認定され、2012年には国土交通大臣から「手づくり郷土賞」を受賞した。岩国往来の復元を契機に、街道沿いの本郷、美和、岩国の歴史、文化、自然を再発見し、対外的にまちをPR、活性化の一助とするため、様々なウォーキングプロジェクトを提唱・実施している。

2 子どもチャレンジ塾

14:10~14:40

幾田 奉文(広島県東広島市) 生涯学習ボランティアグループ ふれあいHEARTS 代表

学校週5日制を念頭に置いた地域センター（旧：公民館）と地域の生涯学習指導集団との協働事業である。活動は原則として土曜の午前中、場所は社会教育関連の各種公的機関を活用。実費は受益者負担を原則とし、「木工・クラフト・陶芸などのものづくり」、「ニュースポーツ」、「カルタなどの伝統あそび」などを通して、子どもたちの社会力を高め、また子どもたちが「子どものためのルール」を守ることのできるように規範の育成にも努めている。活動の成果は地域社会に展示、公開して、地域における子どもたちの社会力の必要性を訴え、より多くの子どもが参加できる体制を整えるべく努力している。

ティータイム

14:40~15:05

3 地域資源「白木湧水」を活用したコミュニティ活性化事業の波及効果

15:05~15:35

山口 素子(福岡県朝倉市) 柏木コミュニティ協議会 事務局長

柏木地区にはコミュニティ協議会があり、各行政区や団体等を対象に地域活性化の方途を探るコミュニティ活性化事業、「地域づくり懇談会」を実施している。白木区には人目につかない場所ではあるが昔から湧水があつたため、懇談会の中でその湧水を活かした地域活性化事業を検討した結果、湧水を使った「そうめん流し」やけんちん汁などのバザーメニューの提供、その他、この活動に賛同した団体による遊休農地を利用したそば栽培やそば打ち体験などの事業が生まれ、地域活性化事業のモデルとなった。次の段階では、白木区での取り組み経過をモデルとして地域に波及させ、順次行政区ごとに「地域懇談会」を進め、それぞれの地区の特色を活かした地域づくり活動を展開し、最終的には各地区の活動をマップに落として地域めぐりができるようなプログラム作成を模索している。

4 「ふるさとづくり」とは何か、どうしたのか、どうなったのか —大田ふるさとづくり協議会の挑戦—

15:40~16:10

野上美喜子(大分県杵築市) 大田ふるさとづくり協議会 副会長

「協議会」は平成22年の設立。「自分たちの地域は自分たちでつくる」を理念とし、構成は地域内の多様な団体。平成26年設立予定の「大田小学校」の開校準備作業を中核として、団体間のネットワーク化を進め、機能の相互補完を図りながら、交流の促進と地域課題の解決に取り組んでいる。活動内容は「ウォーキングを通した世代間交流」、「独り暮らしの後期高齢者の生活支援」、「新春凧揚げ大会」などがある。高齢化率はすでに50パーセントに近いが、住民の健康意識は高く、元気な高齢者が多い。

第2会場●2F 自由研修室

■司 会／中原 聰 福岡県教育庁北筑後教育事務所社会教育室 主任社会教育主事
柳澤 裕実 山口県生涯学習VOLOVOLOの会 事務局

中津市立公民館 生山本 健吾

分科会の進め方

13:30~13:35

1 工場見学プログラムによるキャリア教育とリサイクル・エコ教育の実践
—(株)久保田オートパーツの「企業力」を生かした地域貢献—

13:35~14:05

小川 歩(宮崎県宮崎市) 株式会社久保田オートパーツ 主任

きっかけはラジオ局主催の「宮崎探検隊」(平成20年)で子どもの会社見学を受け入れたことに始まる。当社は自動車部品リサイクルが本業であり、資源の再利用、自然環境を考慮したエコ発想の工場の仕事を教育見学の対象とし、「企業力」を教育に生かすことは創業者以来の夢であった。子どもの工場見学は年々増加し、24年度は32回1973名の受け入れを行った。資源循環型の社会の重要性を啓発し、リサイクルの仕事の意義をより深く実感してもらうため、見学者の増加に伴い、ワイヤレスマイクやスピーカーも設置し、分散見学や入庫一解体一商品化までのプロセスを一貫見学ができるよう工夫も始めた。子どもとの交流は会社の事業にも社員のモチベーションの向上にも有効である。

2 「連塾」塾生による小学生のためのキャリア教育体験講座
—「なりたい自分」を見つけよう—

14:10~14:40

角田みどり(岡山県岡山市) NPO法人連塾 副理事長(中国短期大学 教授)

「連塾」とは地域創成リーダーの養成塾である。修了塾生はそれぞれが地域の創生に関わる機会を見つけ出して活動している。本報告は、岡山県備前県民局との協働提案事業であり、平成24年5月から10ヶ月間、毎月1回「小学生のためのキャリア教育」を取り上げ、塾生がそれぞれの職業を生かして職業体験講座の指導に当たった。取り上げた職業は8種類である。プログラムの運営上、「発達障害」のある子どもや「食物アレルギー」の子どもがいて配慮や支援を要したが、体験講座自体は30~40人の受講生ではもったいないという声も出るほど好評であった。今後は、「連塾」内に「キャリア教育人材バンク」を設立して、子ども集団に出前ができるアウトリーチ型の活動を実施したいと考えている。

ティータイム

14:40~15:05

3 学校支援で育てる教育の協働システムと地域の活力
—「なかつかスクスクプロジェクト山国版」—

15:05~15:35

梶原 豊美(大分県中津市) 山国中学校区ネットワーク会議 協育コーディネーター

平成20年度に学校支援地域本部事業が導入され、中津市10中学校区で「ネットワーク会議」が発足した。山国地区には小学校1中学校1があり、学校の「支援要請計画」に基づいて継続的な支援を実施している。支援の中身は、椎茸のこま打ちから収穫、料理まで、ひょうたんのグリーンカーテンづくりからひょうたんの絵付けまで、野菜や米の農業体験から家庭科、体育科の指導まで多岐にわたっている。学校と地域の連携は、「学校支援者研修会」を工夫し、「支援者が入った授業の参観」や「学校、家庭、地域の世代間意見交流会」など具体的な協働の仕組みを生み出した。また、学校が美術や理科の領域で住民を支援する学校開放授業「山中学びの広場」の創造に繋がったのである。

4 「美里フットパス」の戦略と効果

15:40~16:10

濱田 孝正(熊本県美里町) 特定非営利活動法人美里NPOホールディングス 理事長

「フットパス」とは「散歩の小道」という意味であり、発祥はイギリスである。賛同する個人の私有地も含めて、地域のあるがままの風景を楽しみながら、人々が自由に散策するウォーキング専用の「小道網」のことを行う。美里町には伝統技法で架けられた石橋を始め、美しい田園の風景が広がっている。従来の、イベント志向的なまちおこしは「コスト」と「手間」がかかり、「費用対効果」が常に問題になるが、「フットパス」構想は、低経費であり、地域実情対応型の事業である。町では、自然重視、健康重視、文化的景観重視の昨今の傾向を生かし、月12回のガイド付きの「フットパス・ウォーキング」を主催している。事業主体は「美里フットパス協会」、当NPOが事務局を担当している。町ぐるみの活動に成長し、各地からの視察も受け入れ、事業の仕組みも整い、受け入れ地域が清掃やコースの整備に自主的に関わってくれるようになった。



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／吉岡 康行 広島県教育委員会事務局教育部生涯学習課 主任社会教育主事
草野裕美子 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事

分科会の進め方

13:30～13:35

1 由布市庄内町6小学校集団宿泊指導の教育効果 —こここのえチャレンジスクールの論理と方法—

13:35～14:05

山崎 充(大分県) 大分県立社会教育総合センター 九重青少年の家 指導主事

対象は同一中学校に進学する町内の6小学校の生徒64名。「基本的生活習慣」、「規範意識」、「協調性」を育成し、「中一ギャップ」を軽減できるよう人間関係の構築を目標とした。事前の平行研究として他地域の異なる小学校の5年生を対象とした4泊5日の宿泊体験プログラムも実施した。教育方法の基本は親元を離れた「集団」・「宿泊」体験とし、プログラムは各種の体験教育、仲間づくり活動、班活動を核とした飯田高原探索や地熱発電を素材とした環境教育である。3年に渡るIKR調査結果は、「思いやり」、「明朗性」、「交友」、「協調」、「積極性」などの項目でプラスの変化を示している。

2 地域資源を活かした花と歴史と安らぎの郷づくり —過疎に立ち向かう課題解決型地域づくり組織の協働戦略—

14:10～14:40

柴田 俊彦(山口県下関市) 楠原ゆうあい会 事務局長

少子高齢化が進み、休耕田や荒廃地が広がる豊田町楠原地区で、定年帰郷者たちが中心となって平成19年4月に組織を立ち上げ、自らの経験や知識を活用しながら地域づくりに取り組んできた。多世代の住民を巻き込みながら歴史ある肥中街道を再生し、「梨の花ウォーク」や「歴史街道ウォーク」に活用、郷土史講座の開催、花いっぱい・景観の整備など、地域資源をフルに活かして地域の交流人口増に寄与している。行政、自治会、観光協会、文化協会、道の駅、関係企業等と連携し、寄付金や県・市の助成金を活用するなど、協働による課題解決を進めている。

ティータイム

14:40～15:05

3 学校と地域がとけあう学びの創造—学社融合10年の歩みを生かして—

15:05～15:35

遠藤 敏朗(愛媛県松山市) 松山市立堀江小学校 校長

「学社融合パイロット地区（平成14年）」、「地域コミュニティ推進モデル地区（平成17年）」の指定を契機として学校と公民館が連携して、様々な取り組みを積み上げてきた。活動の基本理念は、「地域に根ざした教育力」、「子どもを核としたまちづくり」、「ふるさと志向」である。公民館と学校の継続的協働の仕組みづくりを目指し、公民館予算、まちづくり予算、PTA予算などの有機的連携を図り、地域ボランティアや地元企業などの協力も得て、学校を拠点として人材を活用し、人々を繋ぎ、地域の伝統芸能・文化を継承できる地域づくりを進めてきた。

4 どうなるこの町、どうするこの街、あなたが主役! —データで検証する大蔵流まちづくり—

15:40～16:10

芳賀 茂木(福岡県北九州市) 大蔵まちづくり協議会 顧問

大蔵地区は市内有数の少子高齢化地域である。経験則重視、前年踏襲、他人任せの地域活動を見直すため、平成20年から北九州市立大学と協働した定期的な地域調査を開始した。

手始めは「独居者調査」、次に「70歳以上世帯編」等の「高齢者ニーズ調査」を行って具体的なデータを住民に提示した。

平成22年には、集合住宅関係の諸課題解決のため東京、京都、北九州の住宅団地の関係者を集めた「集合住宅サミットin大蔵」を開催した。

この間、生み出したプログラムは、幼老共生を目指した大蔵ウエルネスクラブ（「次世代福祉活動者育成事業」）、小学校の「生活科」・「総合的学習」への支援活動、市民の研修を目的とした「大蔵流土曜大学」、空き家を活用した「引きこもり防止のための大学生・ふれあいサロン」などである。

成果は、地域実態が住民に共有化され、長期計画の立案、関係団体との連携が可能となり、組織の運営や意思決定の透明性が実現したことである。



第4会場●4F 大研修室

■司 会／宿利 幸伸 大分県教育庁社会教育課 社会教育主事
安達 浩文 福岡県教育庁南筑後教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 地域の未来は公民館と地域商社がつくる

13:35~14:05

大庭 完(島根県益田市) 真砂公民館長および(有)真砂社長
岩井 賢朗(島根県益田市)

地域の活性化は地域の経済活動、食育活動がカギになると発想し、公民館は地元住民が創始した商社、地域内の小中学校と連携して、地域住民による休耕田を活用した安心・安全な食材づくりや、学校を巻き込んでの食育活動への支援を開始した。一方、商社は、公民館と連携し、市内4カ所の保育所への給食食材として安心安全で旬な野菜の提供を開始すると共に販路を拡大、学校や地域団体とも連携し、食材・食品の開発・加工・販売も手がけるようになつた。このプロセスで休耕田の活用グループも誕生している。高齢者、住民の生きがいとなり公民館の活動参加者も増加し、食と経済活動を通じた地区内外の人々との交流も拡大している。

2 不登校クラス・ステップアップスクール当仁

14:10~14:40

内田富美子(福岡県福岡市) 福岡市立当仁中学校 ステップアップスクール代表

本事業は、中学校の不登校生徒を対象に、地域と学校が連携して将来の進路や人生の指針を見いだす支援事業である。1997年に開設、当初は夜間クラスからスタート、現在は、学校生活に馴染ませるため昼間のクラスも開設している。担任やクラスメイトとの接触が容易にできるよう「心の教室」を中学校内に設置し、専門家の助言も受けながら、進路の案内、受け入れ高校の見学会などを組み合わせている。また、親の会を組織化し、勉強会を続けている。15年の歴史の中で、100人以上の生徒が元気を取り戻して、卒業、進学、就職とそれぞれの人生の開拓に成功し、後輩のアドバイザーとして本事業に関与している。昨年、朝日新聞社－朝日のびのび教育賞を受賞した。

ティータイム

14:40~15:05

3 手づくりふるさと紙芝居

15:05~15:35

末岡美由紀(山口県光市) 光紙芝居 会長

平成17年、光図書館の絵本の読み合い仲間を中心に15名のメンバーで「光紙芝居」を結成した。紙芝居の素材は市内に埋もれた歴史、伝説、言い伝えを聞き歩く中で掘り起こし、ふるさとを主題とした手づくり制作である。手づくり紙芝居45作品、上演回数608回(年平均86回)。ふるさとを主題としたことで、広く様々な人々との関わりが可能になり、学校、公民館、図書館などでふるさと学習、歴史探訪平和学習の一環で上演を続けている。2011年には、「山口どこでも紙芝居フェアin光」を開催して、県内関係者との連携を深めた。上演依頼に応えながら、会員の勉強会や紙芝居のレベルアップに努め、合わせて会が主催する紙芝居の上演プロジェクト、紙芝居を使ったふるさとマップの作成など地域活性化のお手伝いになれば、と活動を継続している。

4 歌で結び、歌で創る「人生の再生工場」 —合唱愛好グループの生き甲斐づくりと地域連帯への貢献—

15:40~16:10

海老原郁子(鹿児島県鹿児島市) 音楽グループ指導者

平成2年、鹿児島市公民館講座「思い出の歌」の終了と同時に、自主グループ「やまびこの会」が誕生。それをきっかけに複数の音楽講座が育ち、合唱・齊唱を問わず、歌声の輪が広がり、現在では公民館の他、民間のカルチャー講座やボランティア活動等の自主グループが14団体、延べ人数430名に至る。

中でも、女声合唱団Mハーモニー(約40名)と混声合唱団『いきいき』(約70名)は県の混声合唱連盟に加盟して発表するほか、時には合同でコンサートを実施。特に混声合唱団は平均年齢72歳。社会人として一応の役割を終えた人々が歌を通して、健康生きがいづくり・仲間づくりをする。「人生の再生工場」と位置付け、発表活動を展開している。この14団体の総称を海老原音楽グループとして、平成25年度もほぼ月に1~2回の割合で、市内外での公開コンサートを予定している。



**第32回大会
特別報告**

■時 間／16:30～17:00 ■会 場／2F 講堂

5.18 Sat.

テーマ●「健康寿命を延ばす」

—暮らしの老年学の原理と方法—

三浦清一郎



**第32回大会
特別企画**

■時 間／9:00～11:30 ■会 場／2F 講堂

インタビュー・ダイアローグ

5.19 Sun.

1部～幼児期の教育プログラムについて～

「『鍛える』幼稚園・保育園に問う。—今なぜ幼児鍛錬なのか?—」

戦後の教育論の混迷は現代に尾を引いています。一方で、「のびのび保育」や「個性教育」が論じられ、教育における「子ども中心主義」は彼らの主体的学習を妨げないために、教師は「指導」ではなく「支援」をすればいいというところまできました。他方、保護者は、教育費が家計を圧迫するほど塾やお稽古ごとの「私教育」に金をかけているのに、子どもの体力、耐性はへなへなで、規範意識は低く、いじめは止まらず、学力すらも心配の種だと言います。子どもの潜在的可能性を「鍛えていないからだ」という議論が出るのも当然でしょう。中身はそれぞれですが、埼玉県、島根県、福岡県なども「鍛える教育」を言い出しました。

「子供を楽にする教育か子供を鍛える教育か」(杉田久信)という議論も始まっています。今なぜ幼児鍛錬なのか?今回は「学童保育で鍛える」をテーマに共同研究を実施した大島まな准教授を司会者に、鹿児島の「ヨコミネ式」保・教育と出雲の鍛える幼稚園に登壇をお願いしてその真意を問う企画です。

<登壇者プロフィール>

●浜田 満明

(島根県出雲市立 高浜幼稚園 園長)



出雲市立高浜幼稚園長。島根県庁時代は社会教育主事として辣腕を振るった。小学校長として転出後も、野外活動を援用した社会教育的手法を学校に取り入れ、一貫して子どもの体力・耐性を鍛えるプログラムを実施して来た。高浜幼稚園の指導もその延長上有る。「体力と耐力が付ければ子どもはどんな活動にも自信を持って挑戦できる」が教育的信念。幼稚園では教育課程上の活動として、日常の生活リズムの中にウォーキングを取り入れた。季節に関わらず、毎日歩く。予算不要、カリキュラム上の配慮不要であり、歩く過程を大事にして自然や人と触れ合う工夫をしている。保護者の評価も得られ、新入園児は増加している。

●矢野やす子

(鹿児島県志布志市 伊崎田保育園 園長)



平成11年4月から鹿児島県志布志市にある純真福祉会「伊崎田保育園」園長。元々は同会所属の別の保育園の調理師として出発。ヨコミネ式保育を提唱している横峯吉文氏にその才を認められ、園長に。子どもは「競争したがる」、「真似したがる」、「少しだけ難しいことをしたがる」、「認められたがる」を保育と教育の基本に据えている。本大会関係者が「園」を視察した際、引き継いだ当初の「伊崎田」を立て直した経緯をお聞きし、その気迫と実績に一日惚れして、登壇を懇請したゆかりの方である。

<コーディネーター>

●大島 まな

(九州女子大学 准教授)



九州大学教育学部社会教育学講座助手、九州女子短期大学講師、助教授を経て現職。福岡県社会教育委員。昭和59年より3カ年、福岡教育大学社会教育（三浦）研究室が主催した「青少年教育キャンプ」にスタッフとして参画して以来、「子どもを鍛える」プログラムに関心を抱く（三浦清一郎編著『現代教育の忘れもの—青少年の欠損体験と野外教育の方法』1987年）。平成24年度には、山口市立井関小学校放課後児童クラブにおいて「『生きる力』を育むプログラムの実践的調査研究」を実施、日常生活場面における体験活動プログラムの教育効果を検証した。

2部 ~高齢者の社会参画を考える~

「高齢研究者に問う。2020年の『高齢者爆発』をどう回避すべきか？」

平均の話ですが、厚労省の発表で、「介護の世話にならざる」、「自分のことは自分で出来る」という日本人の「健康寿命」は、男性70歳、女性73歳で尽きます。一方、2020年は昭和20年生まれが75歳となり、後期高齢期に突入します。この時、すでに男女とも「健康寿命」は尽いています。以後、団塊の世代が続きます。2025年、この世代が80代に突入すれば、病院で死ねるベット数が足りなくなるという試算も出ています。

後期高齢者の「医療費」・「介護費」の国家負担を想定すれば、現代の福祉システムは崩壊に瀕し、若い世代の老後資金は消失します。

高齢者は、教育も福祉も基本的に「保護」の対象としてしか認知していません。医学がいう「廃用症候群」に照らせば、「何もしない高齢者」、「安逸だけを求める高齢者」こそが問題なのです。老衰とぼけは彼らの間で急速に進行し、「無縁社会」の中で立ち往生することになるでしょう。今回は、司会者も登壇者も高齢者で、高齢研究者が高齢者のあり方を論じるという企画です。

<登壇者プロフィール>

●三浦清一郎

(月刊生涯学習通信「風の便り」 編集・発行人)



社会教育・生涯学習研究者、月刊生涯学習通信「風の便り」編集長。近年執筆に集中し、「子育て支援の方法と少年教育の原点」、「The Active Senior—これから的人生」、「しつけの回復 教えることの復権」、「変わってしまった女と変わりたくない男」、「安樂余生やめますか、それとも人間止めますか」、「自分のためのボランティア」、「未来の必要（編著）」、「熟年の自分史」（いずれも学文社）などがある。昨年は下関の高齢者グループ「再起会」と協働して「生涯現役と介護予防のいろはカルタ」を制作し、併せて「生涯現役と介護予防の老年学」を出版している。

●瀬沼 克彰

(桜美林大学 名誉教授)



桜美林大学教授一名誉教授。研究は、余暇問題から出発し、40代以降は生涯学習の分野に傾注してきた。宇都宮大学、文科省社会教育官を歴任。現在は、生涯学習推進の財団の理事、評議員、複数の省・自治体の委員を兼務している。著書は多数。主なものに「現代余暇論の構築」、「余暇事業の戦後史」、「生涯学習と地域ルネッサンス」などがある。近年は、「単発講座」から「連続・継続講座」へ、「受託研究」から「協働研究」へ、省庁・大企業などの「大規模組織」から、自治体、市民団体、大学エクステンションなどの「中小規模組織」との協働に活動の重点を移している。

<コーディネーター>

●森本 精造

(NPO法人幼老共生まちづくり支援協会 理事長)



福岡県社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長を経て現職。穂波町時代、西日本で初めての「学校選択制」を導入。全公立小学校に導入した穂波「子どもマナビ塾」、合併後の飯塚市では「熟年者マナビ塾」などの多くの先駆的行政施策の開発を手がけて来た。2010年度にNPO法人幼老共生まちづくり支援協会を設立し、積極的に活動を展開中である。中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会代表世話人。

第31回大会開催報告

●大会期日 2012年5月19日(土)~20日(日)

●場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者
司会者及び
県別参加者

中国 地区			
県名	実践研究発表数	司会者数	参加者数
山 口	3	2	17
広 島	2	1	26
島 根	2	1	49
鳥 取	3	0	10
岡 山	1	0	8
計	11	4	110

九 州 地区			
県名	実践研究発表数	司会者数	参加者数
福 岡	3	3	175
佐 賀	2	2	36
熊 本	4	2	5
大 分	3	1	9
宮 崎	0	0	2
長 嶺	2	1	56
鹿 児 島	2	1	8
沖 縄	1	1	39
計	17	11	330

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表数	司会者数	参加者数
北 海 道	0	0	1
東 京	0	0	6
埼 玉	0	0	1
愛 知	0	0	1
大 阪	0	0	4
計	0	0	13

四 国 地区			
県名	実践研究発表数	司会者数	参加者数
徳 島	0	0	1
愛 媛	1	1	1
計	1	1	2

	発表者数	司会者数	参加者数	実行委登壇者数	総参加者数
総 計	29	16	455	28	528

特産品、稀少品ありがとうございました

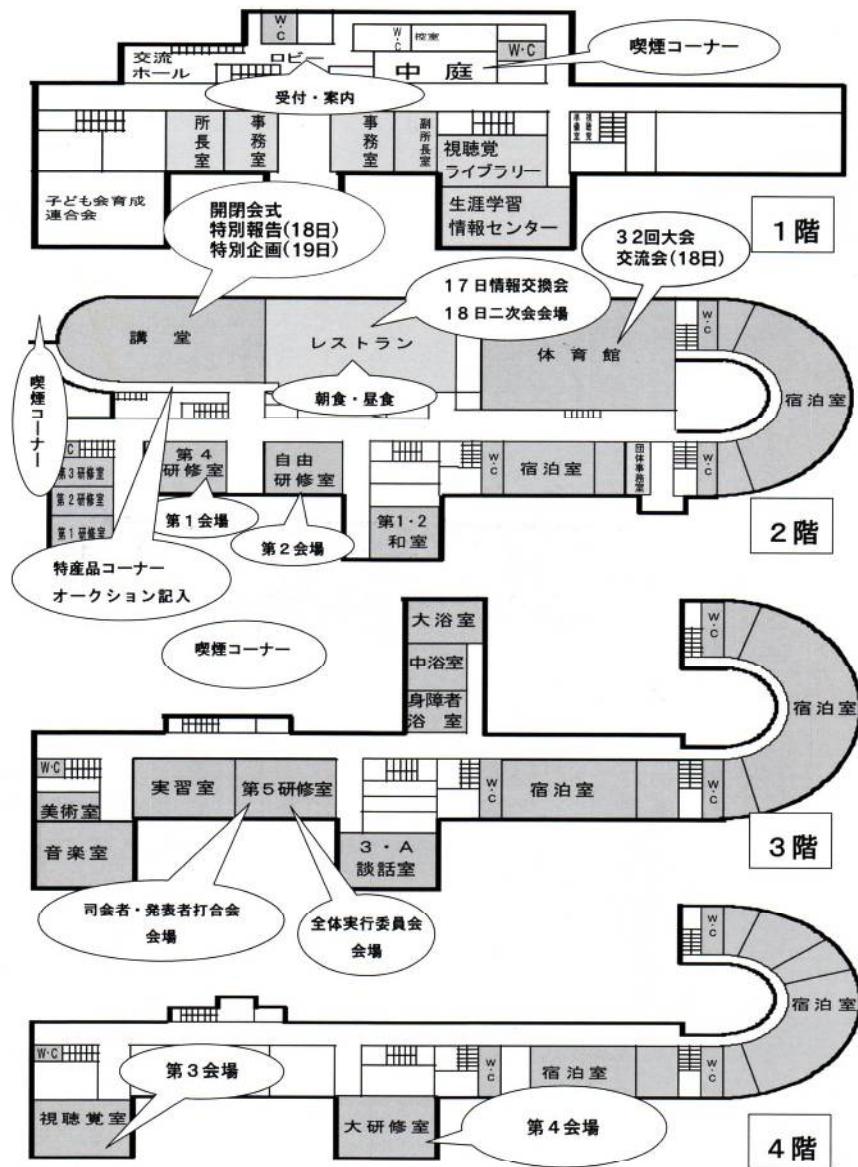
第31回大会も皆様のご協力により、
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
1	木原 忠	福岡県	宇美町	萬代 立春朝撰り 純米吟醸750ml
2	南 信乃介	沖縄県	NPO法人なはまちづくりネット	沖縄丸吉塩せんべい
3	須田 真彰	北海道	(財)札幌市生涯学習振興財團	しゃけのトバ
4	須田 真彰	北海道	(財)札幌市生涯学習振興財團	白い恋人
5	馬場 利浩	長崎県	教育庁生涯学習課	龍馬が愛した珈琲
6	川西 宣泰	広島県	大野こども体験活動ボランティア活動支援センター見守り隊	元祖もみじまんじゅう
7	杉原 潔	広島県	ボランティアネット・ゆうゆう	レモンケーキ
8	武内 猛	広島県		もみじまんじゅう
9	天下 修一	鳥取県	庄村づくり委員会	食べてごしない 二部の味
10	田中 崇詞	島根県	安来市	島根ワイン
11	田中 崇詞	島根県	安来市	出雲そば
12	田中 崇詞	島根県	安来市	清水 羊羹
13	田中 崇詞	島根県	安来市	妖怪まんじゅう
14	橋田 和久	鳥取県	日吉津村	竹炭豆、胡麻とうふ豆
15	森本 精造	福岡県	NPO法人幼老共生まちづくり支援協会	新鮮卵
16	田辺 公教	鳥取県	三部地区活性化推進機構	どぶろく上代
17	田辺 公教	鳥取県	二部地区活性化推進機構	どぶろく羊羹(赤白)2本
18	三浦 清一郎	福岡県		ハンガリーワイン
19	太田黒 保宏	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	太平燕(タピエイン)
20	上杉 奈緒子	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	くまモンクルキー
21	松木 正一郎	沖縄県	沖縄市諸見里青年会	パチスコウ
22	新垣 肇也	沖縄県	平安名青年団	沖縄のお土産
23	松根 則子	沖縄県	うるま市女性連合会	熟成古酒 琉球泡盛
24	天下 将史	沖縄県	恩納村青年団協議会	洞心どう
25	久田 和子	沖縄県	北谷町北五区婦人会	北谷長老
26	吳屋 光祐	沖縄県	中城村青年連合会	シーサー
27	大城 愛士	沖縄県	沖縄県読谷村青年団協議会	泡盛残波(白)
28	金城 協也	沖縄県	長崎長年会	官野酒の泡盛
29	比嘉 裕美子	沖縄県	嘉手納町婦人連合会	嘉手納町野園イモのお菓子
30	天久 純子	沖縄県	北中城村婦人会	沖縄県北中城村のアーサースープ
31	須波 東美子	大分県	福岡県社会教育総合センター	かぼすドレッシング 豊後牛肉みそ ざばん漬け
32	赤田 博夫	山口県	山口県生涯学習VOLVOの会	あさりもなか
33	仲里 翠子	沖縄県	沖縄県糸原町教育委員会	琉球泡盛(酒)
34	福原 洋子	岡山県	岡山県教育庁	備前焼ぐい呑みと岡山のお酒
35	越田 泉子	福岡県	大宰府市教育委員会	ふくよか餅
36	古市 勝也	福岡県	九州共立大学	焼酎 伊佐翁
37	社会教育班	福岡県	社会教育課	高級かす漬け(貝柱) ゆずすこセット
38	角田 敏郎	愛媛県	生石公民館	タルト
39	馬場 日登美	鹿児島県	スクリーン映像「華の花」	さつま狂句
40	馬場 日登美	鹿児島県	スクリーン映像「華の花」	さつま狂句
41	馬場 三恵子、関 弘紹	佐賀県	佐賀県まほび課	焼酎グラス
42	鶴木 孝夫	鹿児島県	きりしま市向花小学校	徳之島の黒糖焼酎きらめき

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
43	紫園 未来	佐賀県	オフィスしほん	鶴の子
44	上野 寧子	山口県	井関ごにごクラブ	お酒
45	輪野 得恵	広島県	府中町教育委員会	カーブかつ、ちっちゃなプリツ(広島お好み焼き味)、もみじまんじゅう等
46	西山 香代子	山口県	山口ネットワークエコー	豆子部(水ようかん)
47	津川 多美惠	広島県	府中町教育委員会	かきのくんせい
48	山本 稔	鳥取県	教育委員会家庭・地域教育課	日置桜(日本酒)
49	吉崎 康行	広島県	広島県教育委員会生涯学習課	桐葉柴
50	財津 敬二郎	大分県	大分県生涯教育学会	虹乙女
51	秋山 千潮	佐賀県	勧農公民館	味のみのり
52	生田 信樹	鳥取県	鳥取県教育委員会西部教育局	水木しげるのほのぼの名言クッキー
53	手嶋 仁美	鳥取県	北栄町生涯学習課	名探偵コナンのクッキーとねぱりっこチップス
54	秋山 千潮	佐賀県	勧農公民館	カルピス
55		沖縄県	NPO法人地域サポートわかさ	紅いもケーキおもろ
56	小松原 弘之・糸賀 真也	鳥取県	鳥取県立青年の家	まむじすっぽんふりかけ
57	増田 清子	広島県		もみじ饅頭
58	藤田 干勢	山口県	ボロボロの会	油谷のミステリーのもなか
59	廣司, 田之上, 下野田	鹿児島県	鹿児島市教育委員会	黒白波
60	中吉 浩一郎	岡山県	岡山市教育委員会生涯学習課	赤磐雄町 純米酒(生酒)
61	中吉 浩一郎	岡山県	岡山市教育委員会生涯学習課	さきだんご
62	安達、内河、弓削、加藤	東京都	国社研	東京芸大美術館高橋由一(ゆいち)展の図録
63	中村 和夫	山口県	GOPPOええぞなクラブ(総合スポーツ型)	羽衣もなか
64	築村 太次	山口県	おこおり歎年集い塾	萩夏みかん
65	藤山 正明	鳥取県	家庭・地域教育課	20世紀なしクリーム大福
66	川内 二郎	島根県	浜田市立三隅公民館	三隅羊羹、兼連公最中セット
67	宮本 和代	福岡県	北九州市教育委員会	函館銀定チーズ&バーカッキー
68	安達、内河、弓削、加藤	東京都	国社研	東京上野 パンダのグッズ
69	杉本 覚之	広島県	広島県教育委員会	カーブかつ、広島カーブもみじまんじゅう
70	川内 二郎	島根県	浜田市立三隅公民館	三隅ようかん2本セット
71	三宅 千恵	岡山県	岡山教育事務所	ごそ丸
72	蓮見 直子	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	山口のちくわつ
73	川内 二郎	島根県	浜田市立三隅公民館	環日本海セット
74	坂口 大輔	福岡県	大牟朋市教育委員会生涯学習課	大蛇山夷焼扇
75	川内 二郎	島根県	浜田市立三隅公民館	環日本海 まどろみ
76	蓮見 直子	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	山口のラスク
77	川内 二郎	島根県	浜田市立三隅公民館	環日本海 水澄みの郷
78	堀 利広	長崎県	長崎県教育厅生涯学習課	長崎ちゃんぽんせんべい
79	寺本 典則	島根県	浜田教育事務所	島根「石見神楽舞まんじゅう」
80	ふりはた ともひろ	長崎県	県生涯学習課	カステラ(切れはし)
81	ふりはた ともひろ	長崎県	県生涯学習課	山梨県産ワイン(赤・白)
82	松本 英俊	長崎県	西海市教育委員会	豚酒「おろくにんさま」
83	小川、福島、川上、山崎、和田	島根県		おだまほん(たまごかけはん専用調油)
84	大屋 マサ子	島根県	浜田市公民館連絡協議会	清酒 石見銀山
85	段川 寿嗣	島根県	浜田市公民館連絡協議会	なしの酒
86	鳥塙 妻美	長崎県	長崎県教育厅生涯学習課	しあわせ・クレス
87	公民館職員	島根県	浜田市立白砂公民館、浜田市金城町美又公民館 今福公民館	干しう柿、柿茶 アルカリイオン水
88	織田 早苗	大分県	県教育厅社会教育課	かぼす果汁
89	伊庭 宏	長崎県	生涯学習課	じげもん三魚盛り
90	原 洋	長崎県	県生涯学習課	長崎諺葉クリス
91	守山 美佐子	島根県	羽須美中学校	日本酒(玉桜)
92	守山 美佐子	島根県	羽須美中学校	酒まんじゅう(玉桜)
93	守山 美佐子	島根県	羽須美中学校	日本酒(池月)
94	斎藤 珍子	島根県	浜田市立岡見公民館	黒いダイヤ
95	柳田 瑞穂	愛媛県	松山市立河野小学校	愛媛ひごてんカレー
96	大島 みな	福岡県	九州女子大学	パー・ボーナ・ジャック・ダニエルズ
97	中村・木戸	広島県	坂町子育て支援センター	生もじ詰め合わせ
98	安田 離人	岡山県	岡山県教育厅生涯学習課	岡山元祖とりそば太田
99	松林 広美	長崎県	たちはな子育て応援隊	手づくりカステラ、一口香入り
100	安部&巻刀ハック	大分県	NPO法人子どもサポートにっこにこ	まるごと大分の山香 山里なつかしーず(しいたけ、おかきセット)
101	篠原 茂	愛媛県	泉州公民館	焼酎
102	林田 一彦	長崎県	長崎県教育厅生涯学習課	五島うどん
103	竹内 一久	宮崎県	高千穂小学校	干穂まいり
104	重松 孝士	福岡県	添田町教育委員会	英彦山からがら
105	今西 幸哉	大阪府	神戸学院大学	界路集“八百源”の水ようかん
106	山邊 公教	鳥取県	二部地区活性化推進機構	源流どぶろく 上代 どぶろく羊羹
107	社会教育室(近藤)	福岡県	筑豊教育事務所 社会教育室	銘酒 玉ノ井 大吟醸
108	北富 真治	福岡県	福岡県立社会教育総合センター	清酒(寒北斗、焦土武士)
109	岩城 智彦	鳥取県	県立船上山少年自然の家	大崎まと白うさぎ 二十世紀架チョコサンド
110	馬場三恵子・関弘紹	佐賀県		熊本ワイン
111	角田 敏郎	愛媛県	生石公民館	ベビー 母恵夢
112	城石 傑弘	福岡県	田川郡今任小学校	寒北斗
113	瀬川 多美惠	広島県	府中町教育委員会	かきあられ
114	岩本 幸恵	鳥取県	琴浦町教育委員会	齋勇
115	三室 千恵	岡山県	岡山教育事務所	津山ホルモンうどん味噌汁、ひるぜん焼きそばチップス
116	大城 嘉江子	沖縄県	NPO法人なはまちづくりネット	島豆腐 ゆし豆腐
117	川内 二郎	島根県	浜田市立三隅公民館	環日本海 純米酒セット
118	社会教育室	福岡県	南筑後教育事務所	さつま小鶴 復刻版
119	小方 祐貴	長崎県	西海市教育委員会社会教育課	原口みかんジュース、芋焼酎ちょうちゅうさん
120	中画 宏	福岡県	県教育厅社会教育課	伊佐美
121	中嶋 裕史	福岡県	須磨町	魚介類等
122	はまさき	島根県		お菓子
123	内 洋一	福岡県	福岡市立上西郷小学校(元 福岡教育事務所)	ビール1箱
124	緒方、瀬口、大谷	福岡県	福岡教育事務所	ビール1箱
125	社会教育室	福岡県	福岡教育事務所	ビール1箱

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または、記入漏れがありましたときは、ご容赦下さい。

会場案内図



「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、掲載されます！

**最新事例
「新しい風」を
クリックして
ください！**

その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

ホームページアドレス

<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

ぜひ一度ご覧ください！

福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029